

別紙

福祉サービス第三者評価の結果

1 評価機関

名称： 一般社団法人 しなの福祉教育総研	所在地： 長野県上田市真田町長 6918 番地 1
評価実施期間： 令和1年10月15日から令和2年1月17日 *契約日から評価結果の確定日（通常、評価結果 報告会日）まで	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） *050431 *B16022	

2 福祉サービス事業者情報（令和2年1月現在）

事業所名：第二明星学園 (施設名) グループホーム	種別：共同生活援助		
代表者氏名：宮下 智 (管理者氏名) 宮下 智	(定員) 北方のそみハイツ：4名 北方日の出ホーム：6名		
設置主体：社会福祉法人明星会 経営主体：社会福祉法人明星会	開設（指定）年月日： 平成18年10月1日		
所在地：〒399-2561 長野県飯田市駄科 2191 番地 1			
電話番号：0265-26-9456	FAX 番号：0265-26-9094		
ホームページアドレス： http://myojo-gakuen.or.jp/			
職員数	常勤職員：8名	非常勤職員	6名
専門職員	サービス管理責任者	1名	
	世話人	6名	
	生活支援員	7名	
施設・設備 の概要	ホーム数	2棟	風呂、トイレ、洗面所、食堂、居間
	居室数	10部屋	

3 理念・基本方針

<p>(1) 法人理念 『みんな幸せになりたい あなたも私も』</p> <p>(2) 憲章 明星学園は、 本当の気持ちを伝えられずに困っている知的障がい・自閉症の方に、 「パーソンセンタード」（本人中心）を基本とした、行動すべてが発信 であるという「お心主義」の信念で、「意思決定支援」を実践する、 あなたも私も幸せになる場所です。</p> <p>(3) 行動基準 ①笑顔で明るいあいさつを、自分から先にします。 ②利用者の目線で安全を考え、健康や環境に異常を感じたらすぐに報告し、</p>

対応します。

- ③どんな小さな発信も受け止め、対等、肯定の姿勢で、意思決定をサポートします。
- ④職員同士で報・連・相を行い、お互いを認め、助け合うチーム支援をします。
- ⑤家族や地域に情報発信し、情報共有します。
- ⑥関わるすべての人に「ありがとう」「助かったよ」を伝えます。

(4) 基本方針

入居者の意思や個性を尊重し、地域で生活することの意味を大切に応援していく。いかなる場面においても、その人がその人らしく生活できる環境や意思決定を尊重し、その実現のために援助を行うと共に地域との繋がりを通して、社会性を養いその人らしいライフスタイルを応援していくこと。

- ① 普通の環境の中で一人の住民としてその役割を分担しながら暮らしていく。
- ② 入居者一人ひとりが自分の考えを出しながら、自分の生活をつくっていく入居者が主体の暮らしの場であること。
- ③ 障がいの程度にかかわらず、入居を希望する人に開かれた運営であること。

4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

- ① その人のライフスタイルを尊重し、意思決定を応援します。
- ② 入居者自治組織「なかよし会」を組織し、毎月または必要時に懇談会、総会を開催し、自分たちで計画、実行することを大切にしています。
- ③ 自治組織の行事、新年会、花火大会、忘年会の実施や地域行事への参加を積極的に応援しています。
- ④ 年1回近隣の住民に声掛けを行い、焼肉大会を開催。
- ⑤ ホームの環境や設備に対する意見を反映しています。
- ⑥ 世話人研修を計画し、世話人、支援員は積極的に参加して、調理や人権擁護、感染対策など知識を深めてもらい、入居者の安全に配慮しています。

5 第三者評価の受審状況

受審回数（前回の受審時期）	初 回
---------------	-----

6 評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

◇特に良いと思う点

○法人の基本的理念・運営方針に基づくグループホーム運営がされていました。

社会福祉法人明星学園の歴史は古く、障害児・者施設、保育園等のバリエーション豊かな事業を展開し、県内の南信地域障害児・者施設の中核的な存在として機能しています。グループホームの数は現在2か所(定員10名)と多くはありませんが、グループホーム運営としては、法人の「お心主義」に基づく、パーソンセンタード（本人中心）の考え方を基本とし、自己選択・自己決定を尊重した支援に努めていました。

○利用者が地域の中であたりまえに暮らせる、家庭的なグループホームの実現に向け取り組みがされていました。

障がい者のグループホーム(共同生活援助)の制度定員が20名と大きくなる中、2つのグループホーム、北方のぞみハイツ(定員4名)、北方日の出ホーム(定員6名)と、小人数で家庭的な利用単位にこだわった生活スタイルとなっていました。利用者一人ひとりがホームの一員として役割を持ち、地域の繋がりの中で一住民として、当たり前の生活ができることを目指していました。

また、2つのグループホームが設置されている地域には、理事長(管理者)の自宅があり、グループホームの利用者だけでなく、理事長自身も地域の一員としての役割を担い地域に貢献する努力をしていました。

○グループホームの生活を通して、利用者の自己実現に向けた支援ができるような取り組みがされていました。

「どこで暮らすか」「誰と暮らすか」「どんな仕事や活動をするか」等、人は誰でもさまざまな欲求をもって生きており、その中でも高次の欲求として自己実現を求めています。その実現のためには、明星学園の基本方針である、「きめ細かな相談と意思決定支援」が最も大切であり、グループホームの支援においても同様な考え方に基づき対応が行われていました。

○利用者の主体性や自由度を大切に生活支援が行われていました。

グループホームは、地域でごく当たり前に暮らす生活を保障していく場であると考え、「外出などの時、連絡さえすれば門限を設けない」「遅くなっても叱らない」等利用者一人ひとりの自主性や自由度を尊重した支援が行われていました。それを実現するために、夜間の宿直、夜勤者の勤務体制が整っていました。

○地域と連携し、地域行事等への参加が積極的に行われていました。

二つあるグループホーム(北方のぞみハイツ、北方日の出ホーム)は、飯田市北方地区の住宅街にあり、日常的な地域とのかかわりの中で、自治会の行事(新年会、忘年会、花火大会等)に積極的に参加していました。また、北方日出ホームでは、グループホームが主催する焼肉大会に、地域の住民の方にも参加していただき、交流を深める取り組みがされていました。

◇特に改善する必要があると思う点

○利用者の重度・高齢化に対応できる施設整備や職員配置の対応の検討をお願いしたい。

のぞみホームの建物は、もともとは重厚感ある民家を改修した建物であり、現在は暮らしやすい生活の場となっていました。しかし、今後利用者の高齢化や重度化が進行する中で、介護や医療の充実を図るために、より使いやすい建物整備、夜勤体制の充実、健康管理面を担当する専門職の配置等を検討していくことを望みます。

○障がいの重い方や、地域在住の方のニーズに対応できるグループホームの設置の実現を望みます。

法人のグランドデザイン(10年構想)の中で、グループホームの事業展開のステ

ップとして、第Ⅱ構想を示しています。その中で、「地域在住の方が利用できるグループホーム」「障がいの重い方が利用できるグループホーム」の設置計画がありますが、少しでも早い設置実現に向け、構想の具体化を進めていただくことを期待致します。

7 事業評価の結果（詳細）と講評

- ・ 共通評価項目（別添 1）
- ・ 内容評価項目（別添 2）

8 利用者調査の結果

聞き取り方式の場合（別添 3－2）

9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント（別添 4）